

司会者は演じてはダメ 自然体が一番

私は当初、役者としてデビューしたのですが、その後すぐに司会の仕事をもらいました。当時はテレビが一般に普及した時期で、私もテレビが大好きで熱心に見ていたので、田武彦さん、青島幸男さん、大橋巨泉さんなど名司会者が活躍していて、司会業は面白いだろうとは感じていました。当時からテレビは何でもありというか、役者は役者だけという決め付けはなかったので、自分も役者でしたが、司会の話が来たときに抵抗は全くなかったですね。

今まで数多くの人気番組に司会者として関わらせていただきましたが、自分自身、司会が上手いとは思っていないんです。私より上手な人はたくさんいますしね。ではなぜ、司会者として呼んでもらえるのかというと、企画の早い段階から入り込むことで、番組の意図を理解した司会ができるからです。企画意図を理

解・把握しているから、下手なりにも説得力があったんだと思います。ですので、私は、司会者は半分スタッフという意識を強く持っています。テレビは他のメディアと違って、司会を必要とするメディアだと思います。特に生放送は、出演者も程よい緊張感を持って臨むから、その分面白さも膨らむ。やっぱりテレビの基本は生放送だと思えますよ。

バラエティー、ニュースと、さまざまなジャンルの司会を経験していますが、その都度、司会のカラーを変えたりはしていません。番組自体、カラーが違うわけだから、こっちが意識して変える必要はないというのがひとつ。あと、意識してしまうと、どうしても。演じる、ということになっってしまうんですよ。演じる、というのはテレビには向かないです。お客さまに見抜かれてしまうから、自然体がいんですよ。

上手な司会者は 場の持つ空気を感じ取る

段取りだけ覚えておいて台本通り

に話せばいい、というスタンスの司会者も時にはいらっしやいます。台本通りに無事終了したところで、面白いものになるかという、そももいかないとは思っています。台本にあることをそのまま言っても説得力がないです。

私はある程度のコメントの方向性は事前に考えておきますが、ほとんどはその場に立ってみて、その言葉が似合うかどうかを考えて、発言するのは、場の空気です。その場の持つ空気がどういふものかを感じ取れないと、司会も空回りしてしまいます。逆に会場の盛り上がりを感じ取れば、すぐに次の話題に行かず、もっと活用することもあつていい。

その点、テレビは、視聴者が直接見えないので難しい。スタジオがいくら盛り上がりつつも、お茶の間が盛り上がりつつあるとは限りません。そのため、いつもどこかで、視聴者ならどう感じるだろう、という視点を大切にしながら、場を読むようにしています。ただ、タイミングよくゲ

ストに話を振ったりするためには、情報が頭に入っていた方がいいですよ。だから事前に勉強というほど、堅苦しいことはしませんが、好奇心をもって日ごろからいろいろと調べようとしています。

とはいえ、司会者は重大な役割を担っていると私は考えていません。そこに集まるお客さまやゲストが一番大切な役割を担っていますから。司会に慣れていないと、つい「自分が何を言うべきか」を考えてしまふのですが、それは最後でいいんですよ。司会者はあまり話さないくらいでいい。場の空気を感じ取って、ゲストやお客さまがきちんと話をできる、聞ける場作りを手伝うという感じでしょうか。

ですので、司会に慣れていない方は、台本をきちんと覚えたりして、自分が何を言おうとしていることよりも、何を聞かないといけないかに神経を使う方が、場に馴染みやすくなると思います。その場をよく見て、よく聞こうとすることが一番大事だと私は思います。

「スター千一夜」・「アイズ100人に聞きました」・「わくわく動物ランド」・「知ってのもしらね」など。誰もが一度は見たとことのある人気番組に司会者として出演し、現在もバラエティー番組や報道番組で司会を務める関口宏さん。幅広いジャンルの司会を上手こなすには、どういったコツがあるのだろうか。関口さんの司会術を伺った。

私の司会術

せきぐち・ひろし 昭和38年NET(現テレビ朝日)シノノギ劇場「お嬢さんカンバイ」でデビュー。その後、「青い山脈」「花と果実」「旅路」「元禄太平記」「油断」などのテレビドラマや、東宝「社長シリーズ」、日活「白鳥」「四つのおの物語」等、映画にも出演。9年間フジテレビの「スター千一夜」の司会を務めた後、TBS「クイズ100人に聞きました」「わくわく動物ランド」の関口宏のサンデーモーニング、読売テレビ「ワンダーゾーン」「関口宏のびっくりトーク ハトがでますよ!」「輝け!噂のベストショー」、日本テレビ「知ってるつもり!?」など幅広いジャンルの番組で司会者として活躍。現在出演中番組 TBS系「サンデーモーニング」(日曜8:00~10:00)「関口宏の東京フレンドパークII」(月曜18:55~20:00)

企画の意図を理解し、「半分はスタッフ」の意識で司会に臨む。

同じタレントでも、役者の場合には、仕事のサイクルが短いですね。もちろんしょうがないことなんですけど、その点、司会者は短くても半年、長ければ1年続く。その意味では、司会力があってよかったと思いますよ。

関口宏

Hiroshi Sekiguchi